

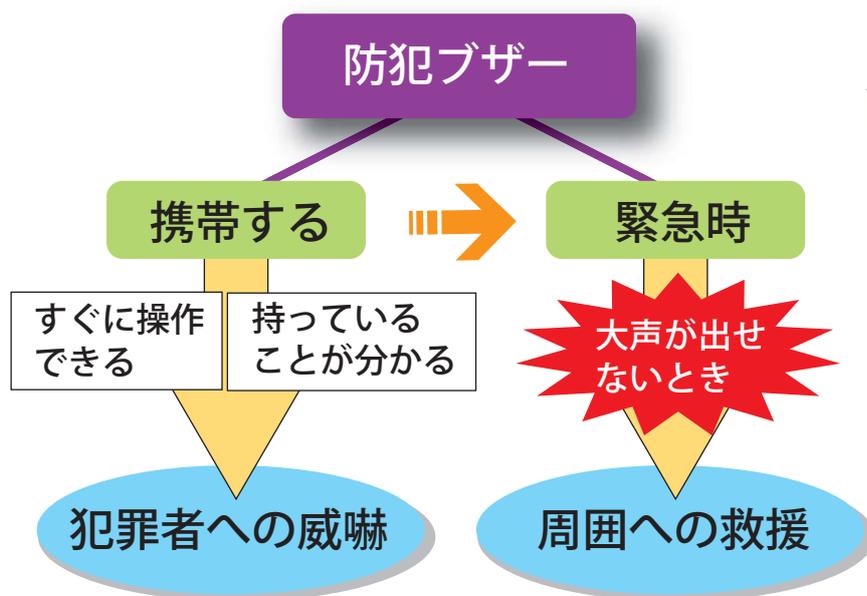
# 4

## 防犯ブザーの効果と留意点

下校途中の子どもが不審者から声をかけられたり、自動車に無理矢理乗せられそうになったりするなど、子どもたちが犯罪に巻き込まれそうになるケースが後を絶ちません。このような中、防犯ブザーを子どもに持たせるケースが増えてきています。また、PTAや自治会が中心となって、学校全体で児童生徒に防犯ブザーを配布し、通学路での子どもの安全確保を図る取り組みも増えてきました。このため、多くの子どもたちが防犯ブザーを登下校時に持ち歩くようになりました。

防犯ブザーは児童生徒が身に危険を感じたときなどの万一の際に、恐怖で声が出ない場合に大きな音で危険を周囲に知らせてくれます。防犯ブザーは、犯罪者へ威嚇とともに、子どもたちが救助を求めていることを周囲の住民に知らせる機能があります。また子ども用の携帯電話には防犯ブザーがついているものもあり、ブザーが鳴ると指定されたアドレスにメールが送信される機能もあります。

### 防犯ブザーのメリット



防犯ブザーの利点を理解して指導しましょう

規準表〈22a〉 防犯に関する機器や道具の特徴や特性，有効性などを理解している。

ねらい □□ ②防犯協会推奨商品のポイントや警察庁推奨の音の大きさなどについて理解している。

□□ ③防犯ブザーの長所・短所，有効な場所などについて説明できる。

□□ ④防犯ブザーを利用するときの注意点や管理方法等について指導できる。



## 気をつけよう

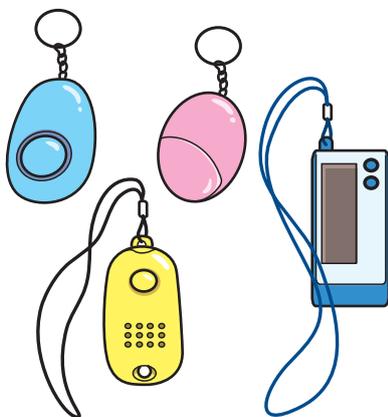
子どもたちが持っている防犯ブザーには多種多様な製品がありますが，中には音量や音色などに不備があり，防犯ブザーとしての機能を果たさない製品も見られます。子どもが危険を感じてブザーを鳴らしても，周囲の大人がそれに気づかないようでは，その効果が期待できません。そのため警察庁は，平成 18 年 11 月に防犯ブザーの性能基準を決定しました。

ただ防犯ブザーを持っているだけでは安心とはいえません。まず，子どもたちが操作の練習を日頃から行い，万一の場合に確実に動作できなければなりません。また，電池のチェックを欠かさず，常に持ち歩くように習慣づけることも大切です。何より大切なのは，緊急時に大きな声を上げたり，危険を察知してすぐに逃げたりする防犯の能力を高めることです。防犯ブザーについて家庭や学校で話し合い，子どもたちの防犯意識を高めることが必要です。



### ビデオ教材 (ビデオ→ 防犯ブザーの効果と留意点)

※ビデオを見て防犯ブザーを子どもに持たせるときのポイントをまとめてみましょう。  
-----



▲防犯ブザーにはたくさんの種類がある

### ビデオ資料 (関連ビデオ→ 学校からの防犯グッズ，防犯ブザーのデメリット)

ビデオの内容についてまとめてみましょう。

-----  
-----  
-----  
-----

### 【防犯ブザーの性能基準】

- 音色：高い周波数と低い周波数を繰り返す変動周期を持つこと。
- 音量：85dB以上とすること。
- 連続吹鳴時間：連続して吹鳴させた場合に、表示音量の90%以上の音量が20分間以上保てること。
- 操作性：引き紐あるいは押しボタンなどの操作は児童が容易に操作できること。

高い音と低い音  
で20分以上  
なり続ける



ブザーを鳴らしたら  
すぐにげる



簡単に  
鳴らせること

## 子どもたちへの指導

- ①子どもの生活の中で起こりうる危険を考えて、どういう場合に防犯ブザーを使うのかを子どもに具体的に伝えます。
- ②防犯ブザーを使う意味は、大きな音で相手をひるませてそのすきに走って逃げるのが目的であるということを理解させ、正しい使い方を覚えるよう指導します。
- ③ブザーを持っているから、絶対安心ということではなく、まずは、大声を出すことが大事であることを伝えます。
- ④遊びやいたずらでは、絶対にブザーを鳴らさないよう指導します。
- ⑤防犯ブザーを投げたりぶついたりすると、強い衝撃でブザーが鳴らなくなるなどの故障が生じることがあるため、ふだんから強い衝撃を与えるなど乱暴な扱いをしないように指導します。
- ⑥もし、無くしたり鳴らなくなったりしたら、すぐにおうちの人や先生に伝えるよう指導します。

## 家庭での子どもへの指導

- ①いざというときに慌てないように、ふだんからおうちの人や先生と一緒に、ブザーの鳴らし方・止め方を練習して、ブザーの大きな音にびっくりして慌てないように、音になれさせておきます。
- ②電池が切れていないか、ちゃんと作動するか定期的に点検を行います。
- ③防犯ブザーは、ランドセルの肩のベルトの部分や手提げカバンなど、すぐ手が届き、鳴らしやすいところに短い紐でつけておきます。
- ④長すぎる紐は凶器になる危険もあるので、首からは絶対にぶら下げないように指導します。また、一人であぶない場所を通るときは、最初から手に持っておくように伝えます。
- ⑤子どもが毎日防犯ブザーを持って出かけるよう、登下校以外のときも、外に出るときは必ず防犯ブザーを持つように習慣として定着させます。

## 注意して指導しよう

防犯ブザーを首にかけると、引っ張られるなどして危険です



定期的に動作の点検をします

防犯ブザーでいたづらをしないように指導します

## 学校での指導

- ①防犯ブザーに頼ることなく、自分で大きな声が出せるように、防犯教室などで実際に大声を出す練習を行います。
- ②「防犯ブザー携帯中」といったステッカーなどを作成して児童に配布し、ランドセルに貼るなどして、防犯ブザーを持っていることをまわりにアピールするように指導します。